

令和2年度（2020年度）

自己評価 報告書

学校法人 巨樹の会
下関看護リハビリテーション学校
理学療法学科

本報告書は、学校法人巨樹の会 下関看護リハビリテーション学校の理学療法学科教員の
自己評価結果を記したものである。

令和3年7月1日

学校長 林 研二

学校評価実施責任者
副学校長 木村 公治

1. 自己評価の概要と実施状況

1) 自己評価の目的・方針

- ①教職員が自己評価を行う中で、学生教育並びに学校運営に関する自己点検、確認、検討の機会とする。
- ②自己評価の妥当性を、学校関係者評価において確認し、学生教育や学校運営についての客観性・透明性を高める。
- ③自己評価ならびに学校関係者評価により、学校運営・教育活動における課題を明確にして、学校運営の改善を図る。
- ④自己評価は本校の学校評価実施規定に則り、「専修学校における学校評価ガイドライン」「学校関係者評価の項目」に応じて実施する。

2) 自己評価委員会委員（9名）

委員氏名	所 属
林 研二	下関看護リハビリテーション学校 学校長
鮫島 陽子	下関看護リハビリテーション学校 顧問
木村 公治	下関看護リハビリテーション学校 理学療法学科副学校長
森寺 智子	下関看護リハビリテーション学校 看護学科副学校長兼教務部長
山崎 圭	下関看護リハビリテーション学校 理学療法学科教務部長兼事務長代行
多田 祥之	下関看護リハビリテーション学校 理学療法学科教務主任
田中 亜紀子	下関看護リハビリテーション学校 看護学科教務主任
井上 祥教	下関看護リハビリテーション学校 理学療法学科副教務主任
小林 愛	下関看護リハビリテーション学校 看護学科実習調整者

（委員会は自己評価の実施、評価、検討のために随時開催する）

3) 自己評価方法

令和2年度の教育活動、学校運営の全般にわたり、項目Ⅰ～項目Ⅹの内容について、教職員個人による自己評価・自己点検の機会を設け、集約した結果を参照して、自己評価委員会にて評価を行う。

また、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性についての検討を行い、学校関係者評価の結果と併せて、健全な画工運営に役立てる。

2. 自己評価の内容

自己評価、学校関係者評価に共通して、各項目の評価は下記に示す達成度による4段階の評価基準にて実施する。

1) 評価基準

- S : 十分に達成している。 (達成度が高い)
- A : 達成している。 (概ね達成しており、明らかな改善は要しない)
- B : 達成がやや不十分である。(若干の改善を要する)
- C : 達成が不十分である。 (不適合がある、明らかに改善を要する)

2) 自己評価の内容

- 項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像
- 項目Ⅱ 学校運営
- 項目Ⅲ 教育活動
- 項目Ⅳ 学修成果
- 項目Ⅴ 学生支援
- 項目Ⅵ 教育環境
- 項目Ⅶ 学生募集
- 項目Ⅷ 財務
- 項目Ⅷ 法令等の遵守
- 項目Ⅹ 社会貢献、地域貢献

項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

総括

「人間愛・自己実現」という教育理念のもと、理学療法学科の教育目的・目標を掲げ学生教育に取り組んでいる。教育理念・目標についてはパンフレット・ホームページ等で公表している。

課題

特になし。

小項目Ⅰ-1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか。

■自己評価: S

■コメント

「人間愛・自己実現」という教育理念を掲げている。

人材育成像としては、一人ひとりの学生が人間愛の精神に基づき、対象者を深く理解し、受け入れ、そのために必要な専門知識・技術・態度を身につけることができるような人材。さらに、専門的な知識・技術の追求のみならず、一生を通じて人格向上の努力を続け、自己実現していきけるような人としている。

小項目Ⅰ-2

教育理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界(高校、病院、実習施設など)に周知されているか。

■自己評価: A

■コメント

教育理念・目的・目標等については、学内掲示・学生便覧にて学生・保護者に周知するとともに、パンフレット・ホームページ等で公表している。

小項目Ⅰ-3

教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。

■自己評価: A

■コメント

本法人および本校の教育目標、人材育成像は、日本理学療法士協会の教育ガイドラインに記載されている到達目標に沿って設定されている。また、教育課程編成委員会ならびに実習指導者会議等を通じて、業界ニーズを教育に取り入れている。

項目Ⅱ 学校運営

総括

法人の方針・事業計画に則った本校の学校教育における運営方針・計画について、管理者・教職員の意思統一が図れている。また、運営組織や意思決定機能についても明確にされており、滞りなく学校運営がなされている。

課題

学生教育を十分に行いながら、さらなる業務効率改善に努めていく必要がある。

改善の方策

会議資料のデジタル化(入力を同時に行えることによる、業務効率化。ペーパーレス化)
遠隔での会議推奨、保護者への一斉メール送信の活用など

小項目 II-1

目的等に沿った運営方針が策定されているか

■自己評価: S

■コメント

本法人の運営会議にて、年度ごとの本法人の事業計画が策定され、それに沿った各校の事業計画が策定される。また、それを受け、本校理学療法学科としての管理目標・教育目標を設定している。また、それに沿った各教員の個人目標を設定し、計画立案、実施、評価(中間・年度末)を行っている。評価終了後は役職者との個人面談も実施している。なお、法人の事業計画書は法人のホームページ上で公開されている。

小項目 II-2

運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか

■自己評価: S

■コメント

本校の学校教育における運営方針・計画について管理者・教職員の意思統一が図れている。学校運営会議・管理会議が意思決定会議として位置付けられ、最終的な意思決定がなされている。なお、会議・委員会の組織ならびに運営については学則に規定されるとともに、概況書に運営組織図、会議の位置づけが記載されている。

小項目 II-3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価: A

■コメント

学事サーバーを導入し、学生に関する情報管理を行っている。成績や出席状況などの情報を個人面談、保護者面談時の資料として適宜活用している。学事サーバーの情報を3月末の単位認定、進級判定、卒業判定会議の資料として活用している。セキュリティ管理については、セキュリティソフトを用いておこなっている。次年度は新たなシステムを導入予定である。1、2年生に関しては、タブレットに入れた双方向授業支援クラウドツールである『ロイロノート』というアプリを用い連絡・報告を実施している。次年度は全学年となる。

また、新型コロナの影響もあるが、遠隔にての会議が行われる機会が多くなり、業務の効率化

に繋がっている。

項目Ⅲ 教育活動**総括**

1年次より段階的にスキルアップできるよう、グループ統一のカリキュラムが組まれている。臨床実習についても、5校全体で委員会を設け、各校や各実習施設からの意見を取り入れながら、常に改善を図っている。

本校は、ICT教育に力を入れ、令和元年度より導入したタブレット端末を多くの授業で活用できている。課題の添削指導や実技指導等にも活用できている。また、看護学科と協力し、令和元年度より専門職連携教育にも取り組んでいる。

課題

目的意識が低い学生や学力面でサポートが必要な学生が増加傾向にある。

教員の研究活動、学会・研修会等への参加が少なかった。

改善の方策

1年次早期より低学力者を把握し、学習支援に取り組んでいく。個々の結果を確認し、指導を進めていく。

教える授業から、自ら学ぶことを多く取り入れた授業への転換を図り、1年次より学ぶ、覚える習慣を身に着けさせる。面談も定期的に行い、心理的なサポートも行っていく。

教職員の研究活動については、グループ病院等とも連携しながら研究活動を進めていく。また、学会・研修会への参加も促していく。

小項目 III-1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価: S

■コメント

教育課程の編成方針、実施方針に関しては、教育理念のもと、指定規則に従いグループのカリキュラム委員会、運営委員会で決められている。

小項目 III-2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実

施されているか。

■自己評価: A

■コメント

特記すべき事項のみ以下に記載する。

- ・1 年次に授業の中で個々のキャリアデザインについて考え、発表する内容を組み入れている。
- ・看護学科と共同で、各学年のレベルに応じた専門職連携教育(IPE)を実施している。最終学年では、実践の場を想定した内容となっている。
- ・チーム医療の実践に必要な他職種の理解について、1 年次の科目で盛り込んでいる。
- ・今年度より1 年次の見学実習が組み込まれた(但し、新型コロナウイルス感染拡大の影響により学内実習をなつた)
- ・実技指導および実技試験にタブレット端末を用い動画撮影を行うことで、フィードバックや実技の復習に活用している。
- ・現場の理学療法士の方に患者役を務めていただく実技試験を2 年生の後期で実施し、現場の理学療法士の視点に立って、評価およびコメントをいただいている。

小項目 III-3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価: B

■コメント

学生に対し、授業評価アンケートを実施している。今年度は、Google form を用いアンケートを実施したが、いくつかの問題点が上がっており改善が必要である。

専任教員においては、教員間での授業評価も実施している。しかし、評価項目の見直しや授業の工夫点を事前に伝え評価してもらうなど、さらなる工夫が必要である。

小項目 III-4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価: A

■コメント

3 年間での資格取得を念頭においたカリキュラムが組まれている。また、3 年次には「理学療法総合学習」という科目にて、知識の統合をはかっている。3 年次の国家試験対策として、自己学習、班学習、セミナー、模擬試験を連動させた計画を遂行した。また、成績不良者については、早期より教員による少人数指導、個別指導、口頭試問など実施した。

卒業生(不合格者)に対しては、5 月より課題学習・確認試験を実施し、10 月より在校生と合流させ対策を実施した。

小項目 III-5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みが行われているか。

■自己評価: A

■コメント

学会、研修会への参加および研究を奨励している。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となる学会や研修会が多く、参加数が減少した。希望する研修会等で遠隔で実施されたものには参加した。

毎年、関連校で教育に関する研修会を開催しているが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となった。

一部の教員は論文を出したり、次年度に向けて研究の準備をすすめていたりしている。

項目IV 学修成果

総括

就職に関しては、これまで1 期生から13 期生まで100%を達成している。今年度は、新型コロナウイルスの影響により、例年に比べ求人が厳しいことが予想されたため、早期より学生へ意識づけを行うとともに、様々な就職活動支援(IV-1、V-1 参照)に取り組んできた。

国家試験については、1 年次より計画的に取り組む、3 年次にはセミナーや個別指導など積極的に取り組んできた。

退学率の低減のため、様々な取り組み(IV-3 参照)を行い、単年度退学率を低く抑えることができている。

課題

国家試験の合格率を上げる。(100%合格を目指す)

3 年次になっても、基礎的な知識が定着していない学生が多い。

改善の方策

初年次の教育が重要であり、初年次に学習習慣を身に付けさせ、特に基礎専門科目については、しっかり理解し、覚えるよう指導を行う。小テスト等を定期的に行い、習得状況を可視化させるとともに、必要に応じて面談も実施し、学習意識を高めていく。学力の底上げを図ることで、成績不良による退学者を無くすとともに、国家試験合格率向上に繋げる。

また、メンタル面で問題を抱える学生もいるため、カウンセラーとも連携し、学生の心理面もサポ

一トしていく。

小項目 IV-1

就職率の向上が図られているか。

■自己評価: A

■コメント

早期より学生に意識付けを行うとともに、学生の就職活動状況を把握し、教員間で共有し、就職支援に取り組んできた。新型コロナの影響もあり、例年に比べ厳しい状況であったが、年度内に就職100%を達成する見込みである。(※令和3年3月、100%達成)

小項目 IV-2

国家試験合格率の向上が図られているか。

■自己評価: A

■コメント

昨年度の結果を振り返り、修正した国家試験対策を実施した。3年次の対策としては、自己学習、班学習、セミナー、模擬試験を連動させた計画を遂行した。また、成績不良者については、早期より教員による少人数指導、個別指導、口頭試問など実施した。また、模試ごとに分析を行い、学科で情報共有をするとともに、学生の状況に応じた対策を実施した。

小項目 IV-3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価: A

■コメント

退学率の低減のために、①定期的な面談、②学生状況の早期把握と教員間の情報共有、③気になる学生に対する早期面談、④校内カウンセラーによるカウンセリング、⑤保護者との電話連絡や面談、⑥低学力者の早期把握と学習支援を実施している。

小項目 IV-4

在校生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価: A

■コメント

ボランティア活動、地域清掃、地域や施設の祭り補助等の参加状況の把握を行っている。今年度は、新型コロナ感染拡大の影響により、ボランティアの募集が全くない状況であった。

項目 V 学生支援

総括

進路・就職に関しては、下記(小項目 V-1 のコメント)に記載の通り支援を実施している。

学生の相談に関しては、日頃から声をかけ話しやすい雰囲気をつくるとともに、担任を中心に面談を実施している。また、カウンセラーによるカウンセリングも取り入れている。また、保護者との電話連絡や面談を適宜実施している。

高校・高等専修学校等との連携(高専連携)に関しては、高校訪問やガイダンス、高校教諭向け説明会等にて積極的に情報発信するとともに、高校のキャリア教育等への協力要請にも応じている。

課題

特になし。

改善の方策

特になし。

小項目 V-1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価: A

■コメント

就活セミナー、マナー講座、関連病院見学、就職説明会、履歴書作成指導、面接指導を実施するとともに、就職活動状況を随時把握し、情報共有を図り指導に役立てている。

関連病院では、グループ校を優先した就職試験が実施され連携が図られている。

新型コロナ禍の7月に合同就職説明会を対面で開催し105施設参加いただいた。10月には本校の就職説明会を対面で開催し、41施設に参加いただいた。

今年度は、就職についても新型コロナウイルス感染拡大の影響が懸念されたため、早期から積極的に活動し、早期に内定をいただくように促した。

小項目 V-2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価: A

■コメント

日頃より、学科教員全員が学生に声をかけ、コミュニケーションをとるように心掛けている。

学科内で学生の情報共有を図り、学生に関わっている。また、管理会議での両学科の学生情報共有も行っている。

担任制をとっており、定期面談や、必要に応じ随時面談を実施し、積極的に学生からの相談を受けている。また、必要に応じ役職者を交えた面談も実施している。

校内カウンセラーが週 1 回勤務し、学生の希望に応じてカウンセリングを実施している。カウンセリングの案内は入学時に全学生に説明するとともに、常に掲示板等に掲示している。

小項目 V-3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価: S

■コメント

成績や生活面で気になる学生に関しては早期に保護者連絡を実施するとともに、必要に応じて保護者面談を実施している。

今年度は、新型コロナの影響で学事計画が変更され、1年生の保護者会を 9 月、2 年生を 12 月に実施した。また、遠隔での参加も可能として開催した。

小項目 V-4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。

■自己評価: A

■コメント

高校のキャリア教育の受け入れについて今年度は、下関国際高校、下関工科高校より申し込みいただいた。新型コロナ感染拡大の影響により下関工科高校は中止となった。

高校訪問、高校ガイダンスでの情報提供を行った。今年度前半は、ガイダンスの中止が相次いだが、後半は参加する機会が増えた。

小項目 V-5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価: A

■コメント

独自の修学支援としては、早期入学者に対する初年度授業料減免制度、家族入学割引制度、特待生減免制度、社会人入学金免除制度、災害被災に伴う学資支援制度(法人)、学生寮などがある。

これらの情報に加え、学生支援機構等の情報も含め、HP やパンフレットにて情報提供を行っている。

項目 VI 教育環境

総括

指定規則に定められた教育環境は、整えられている。学内の Wi-Fi 環境も整備され、ICT 教育ならびに遠隔授業に関する環境が整っている。今後も、さらに教育環境の充実を図っていく。

防災に関しては、毎年 2 回消防避難訓練を実施している。また、昨年度作成した防災マニュアルについては、教職員、学生に配布を行った。

課題

いつでも遠隔授業がスムーズに行えるように準備をしておく必要がある。

改善の方策

遠隔授業については、定期的実施し、教員のスキルアップを図ると共に、家庭の受信環境を常に整えていただくよう働きかける。また、学生寮についても、Wi-Fi 環境を整える。

小項目 VI-1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価: A

■コメント

施設・設備・機器・備品・図書等は設置基準、関係法令に適合し、学習効果を向上させるためにプラスアルファで揃えている。Wi-Fi 環境も整備し、多くの教科でタブレットを導入した授業を実施している。施設・設備等定期的に点検を行い、補修が必要な箇所については、予算を付けて対応している。教材についても同様に実施している。

小項目 VI-2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価: A

■コメント

臨床実習、対人関係演習などカリキュラム内の科目に関する実習施設は、十分に確保されている。カリキュラム改訂に伴うデイケアや訪問リハ施設の実習地確保についてもほぼ確保できている。

教育体制(実習指導体制)については、グループ 5 校と関連病院との連携が十分にとれ、本校においても教員が実習訪問し、指導者との調整や学生指導を実施している。

小項目 VI-3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価: A

■コメント

年1回の消防訓練も実施し、記録も適切に保管している。消防設備等の整備及び保守点検は法令に基づき行い、改善が必要な場合は、適切に対応している。また、本校独自の災害対応マニュアルを作成、配布し周知をはかった。

項目 VII 学生募集**総括**

パンフレットやホームページ、SNS、広報媒体等を用いての情報発信、オープンキャンパス・学校説明会・ガイダンス、高校訪問や教諭向け学校説明会での情報伝達を積極的に行っている。

課題

少子化、高校再編等が進む中、入学者確保はさらに難しくなることが予測される。

改善の方策

今後も学生ひとりひとりを大切にした教育を実践し、学修成果を高めていくことで高校生・保護者、社会人、高校教諭の方々、そして地域からの信頼を高めていく。また、本校の特色である、関連病院との連携、ICT教育、看護学科との共に行う専門職連携教育を推進し、魅力ある学校造りを行っていく。

今後も様々な方法で情報発信を行い、本校の魅力を伝えていく。

小項目 VII-1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価: A

■コメント

高校訪問、高校ガイダンスでの情報提供を実施している。今年度前半は、中止が相次いだが、後半はガイダンスに参加する機会が増えた。

小項目 VII-2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価: A

■コメント

パンフレット、ホームページ、学校説明会、オープンキャンパスでの情報提供を実施している。また、志願者からの問い合わせに対し個別に対応している。学校説明会やオープンキャンパス参加者の方々からは好評を得ている。また、高校教諭向け説明会も対面にて2回開催することができ、本校の取り組みや資格取得・就職状況等をお伝えすることができた。

項目 VIII 財務**総括**

法人および学校の運営方針に則り、適切に財務管理が行われている。

課題

少子化、高校再編等が進む中、学生募集はさらに難しくなることが予測されるが、しっかりと入学者を確保し、今後も財政を安定させていく必要がある。

改善の方策

教育と並行し学生募集活動も積極的に取り組んでいく。

小項目 VIII-1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価: A

■コメント

中長期的な計画の下、学校運営がなされている。法人全体としても安定した収入と資産があり、財政基盤は安定しているといえる。本校においても学生数は増減があるものの、経営努力により収支の均衡は保たれている。

小項目 VIII-2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価: A

■コメント

運営方針に沿った事業計画に基づき、両学科が調整を図ったうえで予算を計上し、法人本部・理事会で承認された予算が通達される。それに基づき本校では適切な運営がなされている。

小項目 VIII-3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価: S

■コメント

財務は、法人本部と各学校の二重体制の管理が行われている。また、法人および本校に対して外部監査が年間に複数回行われており、これまで特に大きな指摘は受けていない

項目Ⅷ 法令等の遵守**総括**

法令順守は、法人全体で取り組まれている。本校においても法令を遵守している。

個人情報保護に関しては、法人全体で規定を設けるとともに、教職員、学生への指導を行っている。

課題

本校では、これまで問題は起こっていないが、昨今、世間では若者の SNS 等を通じての情報漏洩や不適切動画の投稿が問題となっているため、今後も職員ならびに学生に対して教育を継続していく必要がある。

改善の方策

教職員・学生に対して、SNS ならびに個人情報保護に関する教育を毎年実施していく。

小項目 IX-1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価: S

■コメント

理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守し、教員数の確保、カリキュラムの作成、施設・教材等の整備を行っている。「専修学校実態調査票」を文科省へ毎年提出し、入学者数、卒業者数、教員数(名簿添付)等を報告している。学校法人でハラスメント委員会を設置し、各校から委員が選出されている。ハラスメントマニュアルも策定している。

小項目 IX-2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価: A

■コメント

個人情報保護に関して法人全体の規定を設けており、教職員及び外来講師、学生が厳守すべき事項が定められている。学生についても 初年次より SNS の取り扱いを中心に個人情報保護についてのセミナーを実施している。

実習における個人情報保護に関しては、SNS の取り扱いも含め指導を徹底している。また、教職員に関しても個人情報の管理についての注意喚起を定期的に行っている。

項目Ⅹ 社会貢献・地域貢献**総括**

例年は、山口県理学療法士会や関連病院等に施設貸し出しを実施していた。また、理学療法学科教員による高校の部活動支援にも取り組んでいた。学生へのボランティア活動についても、依頼があった募集については、掲示板に掲載し参加を促していた。しかし、新型コロナの影響により、中止が相次ぎ、社会貢献・地域貢献ができなかった。

課題

新型コロナの影響で、社会貢献・地域貢献が積極的に行えない状況にある。

改善の方策

新型コロナ渦であっても、行える活動を選び、正課のカリキュラムの中でボランティア活動を行い、ボランティア参加、地域貢献活動の意義を学生に伝える。

今後も地域から要請があったボランティア募集については学生に周知し、参加を促していく。

小項目 X-1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価: B

■コメント

今年度は、新型コロナの影響により、施設の貸出しも、活動もほとんど実施できていない。

小項目 X-2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価: A

■コメント

学業に支障のない範囲で、ボランティアへの積極的な参加を促している。

今年度より、1年生のカリキュラムの中にボランティアへ参加組み込まれた。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、ボランティアの募集がまったくない状況であったため、海岸の清掃活動などを体験させた。